畜産局食肉鶏卵課

「令和４年度食肉生産流通多角化支援事業」ロジックモデル

事業を行う背景（現状）、解決すべき問題・課題

（事業を実施する背景（現状））

食料の安定供給を図るため、我が国で今後人口減少が見込まれる中でも畜産業を持続的に発展させていく必要があるが、このためには高品質な我が国畜産物輸出に係る品目ごとの課題を解決する取組を行い、畜産物の輸出拡大を図ることが必要。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外における食肉の需要は大きく変化し、スライス肉や小分けパック等の消費者向け商品の需要が高まっている。

（解決すべき問題・課題）

消費者向け商品を輸出するためには、輸出先国の認定を取得した国内の食肉センター等で製品を製造する必要があるが、現状、これらの施設では部分肉や大容量パック（BtoB商品）の製造にとどまっている施設が多く、特に国外における消費者向け商品の需要にこたえられていない状況。

このため、家庭内需要の増加といった海外の需要の変化に対応できるよう、食肉流通において必ず経由する食肉センター等においてスライス肉など小売の店頭に即座に陳列可能な製品づくりを可能とし、これらの製品の国外への販路の拡大のための取組を支援することにより、食肉流通の多角化を推進し、もって食肉の輸出拡大を図る。

現状・課題を示す指標

・輸出額（2020年）：（牛肉）292億円、（豚肉）24億円、（鶏肉）25億円

・農林水産物・食品の2030年輸出目標：５兆円（うち牛肉：3,600億円、豚肉：60億円、鶏肉：100億円）

インプット（予算）

予算額（百万円）Ｒ４：１，０００百万円（要求額）（Ｒ３：１，０００百万円）

アクティビティ（事業概要）

①食肉センター等における精肉等加工施設・設備及び加工食品製造施設・設備の整備を支援。

②民間団体が行う輸出先国におけるスライス肉や小分けパック等の消費者向け商品の需要・嗜好性調査、試験的輸出、試食会の開催等の取組を支援。

アウトプット（活動実績）

①精肉等加工設備及び加工食品製造設備の整備に係る取組	②需要・嗜好性調査、試験的輸出等の取組
Ｒ４見込み：４件	Ｒ４見込み：需要・嗜好性調査　２件 試験的輸出　１件 試食会の開催　１件

アウトカム（成果目標）

【短・中期】 本事業で精肉等加工施設・設備及び加工食品製造施設・設備の整備を行った食肉センター等からの食肉の年間輸出額の増加	【短・中期】 本事業の需要・嗜好性調査、試験的輸出等の対象である輸出先国に対する食肉の年間輸出額の増加
定量的な指標： ①これまで消費者向け商品の輸出を行っていない者にあっては本事業で整備した施設・設備を使用した製品の輸出 ②これまで消費者向け商品の輸出を行っている者にあっては本事業で整備した施設・設備を使用し、消費者向け商品の輸出量を３年で30%増	定量的な指標： ・本事業による取組に参画した施設のうち、消費者向け商品の輸出を開始した又は当該施設からの消費者向け商品の輸出量を30%以上増加した施設の数

インパクト

・精肉等加工施設・設備及び加工食品製造施設・設備を整備した波及効果による食肉輸出額の増加

・2030年の牛肉輸出目標3,600億円、豚肉輸出目標60億円及び鶏肉輸出目標100億円の達成に向けた輸出拡大

・畜産業の持続的な発展による食料の安定供給